天空を駆ける豪華列車

PERU
Exploring Andes

南米大陸、標高5,000mを超える
アンデスの山々を縫って走る豪華列車がある。
それが「Belmond Andean Explorer
(ベルモンド アンデアン・エクスプローラー)」。
白亜の都アレキパから、天空の湖チチカカ湖を抜け、
インカの中心クスコを結ぶ南米初のクルーズトレインだ。
さあ、未知への憧れをかき立てる冒険の旅へ。

01

文／鈴木博美　撮影／Ryoichi Sato

01. アンデアン・エクスプローラーの最後尾にあるオープンデッキ。02. バロック様式の教会はペルーの見所でもある。03. 富士山を彷彿させるミスティ山。04. アルパカと少女。05. ジャガイモとトウモロコシはペルーの食卓に欠かせない。06. アレキパのサンタ・カタリナ修道院にて。07. タキーレ島の女性。華やかな民族衣装が強い日差しに映える。

01. コルカ渓谷は、大きな断崖絶壁を有するV字型の地形。02. 鳥類の王者コンドルが舞う。03. アレキパの白い回廊。04. チャチャニ山とカテドラルはアレキパの名所。05.06. アレキパの「ラ・ペニータ」で、ロジャー・ファルロン・キカーノシェフが作る郷土料理に舌鼓。

旅の序章
神の鳥が棲む谷と白亜の都
Colca Canyon, Arequipa

アンデスの山々に囲まれた、どこまでも続く平坦な高原をひたすら走る。湿地帯ではアルパカが草を食み、ペルーの国章に描かれているビクーニャが疾走する。標高約4900mの峠を越えると、神の鳥と呼ばれるアンデスコンドルが舞う谷はもう目の前だ。

コルカ渓谷は、ペルー南部を流れるコルカ川がアンデス山脈を削って造りだした。70㎞にわたって続く巨大な渓谷は、最も深いところで3800mに達し、アメリカのグランドキャニオンを凌ぐといわれる。ここにインカ時代から聖なる生きものの一つとして崇められてきたコンドルが生息する。晴れた日の早朝に限り、高い確率で見ることができるという神の鳥。今夜は渓谷沿いのホテルで体を休め、明朝会いに行くとしよう。アンデスミントをたっぷり入れたムニャ茶を手にテラスの長椅子に体を預け、渓谷を渡る風の音に耳を澄ます。紫色に染まる夕空に雪山が映える。夜を迎えた空には南十字星が瞬いていた。思えば、ペルーは赤道の南側に位置するのだ。

明くる日の早朝、コンドルの観察ポイントに向かうと、既に10羽ほどが上昇気流に乗り、谷間を旋回していた。頭上を通り過ぎる時、その迫力と大きさに圧倒される。渓谷を見下ろすと、目がくらむほど遥か下にコルカ川が流れている。富士山ほどの高低差がある谷底から吹き上げる風を捉えて、一羽のコンドルが空に浮き上がった。その美しくも神々しい姿は、インカの地にいることをあらためて感じさせてくれた。

＊

コルカ渓谷の玄関口となるペルー第2の都市アレキパは、乾燥した山間にあるオアシスのような街だ。標高は約2300m。16世紀、スペイン人が故郷の地中海沿岸にある白い街並みを再現しようと、建造物の多くを周辺で採掘された火山岩で建設したことから、別名〝白い街〟と呼ばれている。

またこの街はペルーきっての美食の地としても知られる。標高のわりに温暖な気候から農業と畜産が盛んで、海へも近くて新鮮な魚介類もたくさん入ってくるため、食材の宝庫なのだ。街の至るところにピカンテリアと呼ばれる食堂が点在し、郷土料理が堪能できる。チュペ・デ・カマロネスという濃厚な川エビのスープ、ロコトという唐辛子の一種に牛肉をふんだんに詰め、その上にチーズをのせてこんがり焼いたロコト・レジェノなどの逸品を食べずして、アレキパは語れない。

そんな麗しき美食の街は、これから乗車する「ペルモンド アンデアン・エクスプローラー」の発着を担う。アガサ・クリスティ原作『オリエント急行の殺人』の舞台として知られる「ペニス・シンプロン・オリエント・エクスプレス」を運行するペルモンド社と、ペルーレイルとの共同運営による2泊3日のクルーズトレインだ。

「All Aboard!」

定刻の午後8時、列車はゆっくりとアレキパの駅を滑りだした。

アンデスの美しき荒風景のなかを
運行される豪華列車。

01.ー03. タキーレ島の人々は昔から羊を飼い、糸を紡いできた。04.05. ウロ族の船の舳先を飾るのは守り神のピューマ。06. タキーレ島からチチカカ湖を望む。湖の面積は琵琶湖の約12倍。伝説によると、チチカカ湖に浮かぶ島に、太陽の神が初代インカ皇帝を遣わしたとされる。

空よりも碧い湖で迎える朝 インカの民の島へ

Lake Titicaca

列車は一晩かけてアンデスの山間部を走り抜け、雪解け水を湛えたチチカカ湖に辿り着いた。標高は約3800m。富士山の頂よりも高い所にある湖だ。

アンデアン・エクスプローラーでは、湖上で生活を営むインカの民に会いにいくプログラムが組まれている。湖畔の街プーノからボートに乗り込み、およそ20分。最初に訪れたウロス島は、この辺りでは一番古い民族・ウロ族が暮らす。島といってもトトラと呼ばれる葦に似た植物を積み上げた簡易な浮島だ。トトラの根の塊をブロック状に裁断し、その上に若いトトラを積み上げていく。トトラの茎には無数の空気穴が開いていて、それが浮力の源となるのだ。現在も大小あわせて105の浮島で生活が営まれている。

「暮らしに必要なものは何でもトトラで加工できます。船も造るし、ベッドも帽子も作る。堆肥にして畑もできる。浮島は家族が増えればトトラを足して面積を広げます。1軒分を切り離して、よその島と結合するのも簡単ですよ」と、島の家長が教えてくれた。

ウロス島からさらにボートで90分ほど。次は湖の西に浮かぶ孤島タキーレだ。この島には、およそ2000人のケチュア族が自給自足に近い暮らしを今も営んでいる。インカ時代から続く段々畑が島を覆い、羊たちが碧い湖をバックに草を食んでいる。紺碧の空と湖。遠くに見える純白の雪に覆われたボリビアの山の清々しい景色に心が洗われる。

この島は1950年代まで本土との交流をほとんど持たなかったことから、独特の生活様式を今に残すことになった。主要産物は織物と編み物。広場では、糸を紡ぐ女性たちに交じり、編み物をする男性の姿も見られる。島の人々は歩きながらでも、井戸端会議中でも編む手を休めない。親から子へ連綿と受け継がれてきた生活慣習と織物技術は、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている。インカ時代からほとんど変わることのない島の人々の営み。限られた資源を最大限に生かし、必要なものだけで暮らす生き方から、学ぶべきことは多い。

天空の高原を駆ける
優雅なる時間

Altiplano

「お味はいかがですか？」太陽が地平線に沈む頃、食堂車では専任シェフによる美しく繊細な料理の数々がテーブルを彩る。本日はゴートチーズを包んだトルテリーニのコンソメスープ、ビーフテンダーロインとパプキンクリーム、紫トウモロコシのカスタード、イチゴのローストとパイナップル、カモミールティー。列車の揺れが伴うなかで美しく美味しい料理を提供するには、地上とは異なる工夫と技術が必要だろう。

「列車に乗ること自体も楽しいですが、土地の食材を使った料理にも期待していただきたい。奥深いペルーの魅力を伝えたいという思いから生まれた特別なこの旅が、いつまでも心に残るよう、皆さまに最高の体験を味わっていただくことが私たちクルー50名の楽しみです」。各国のベルモンドホテルをはじめ、クスコ―マチュピチュ間を走るハイラム・ビンガム号などで約20年におよぶ経験を重ね、2017年の運行開始以来ジェネラルマネジャーとして同乗するハビエル・カラヴィラ氏は話す。

最終日は、チチカカ湖から続く大平原アルティプラーノをさらに北上し、ウルバンバ川に沿ってクスコを目指す。この一帯は冷涼で雨が少ないため背の高い樹木は育たず、赤茶けた山と大地が支配する。アンデスの原風景が車窓を流れる、アンデアン・エクスプローラーのハイライトの一つだ。時折見えるインディヘナたちの農村風景は、ここが標高4000mであることを忘れてしまいそうなくらい長閑で平和だ。

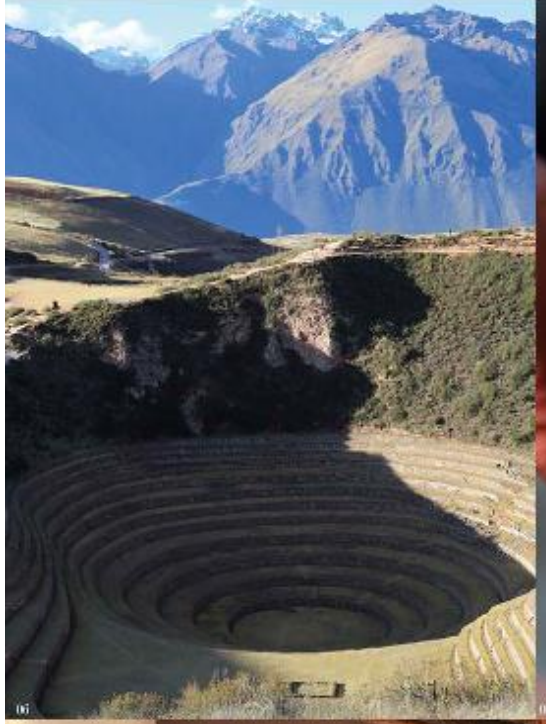
景色を楽しむ乗客の会話がラウンジカーで弾んでいる。ドイツ人親子の男二人旅、リマ在住のアメリカ人青年、新婚旅行のフランス人カップル……旅のスタイルはさまざまだが、限られた空間で数日を共に過ごすクルーズトレインでは、ゲスト同士の距離が一層縮まる。これも列車の旅の醍醐味といえよう。

「この川はマチュピチュを越えてアマゾン川に合流するんだよ」

ドイツから来た少年が得意げに教えてくれた。少年はラウンジカーから続くオブザベーションデッキ（展望車）で、流れる景色を誰よりも楽しんでいた。

最後の停車地、インカの神殿跡が残るラクチ遺跡を訪ねたら、クスコまでは残すところ100km。列車は並走していたウルバンバ川を離れ、クスコ市街地へと入っていく。アンデス山脈を進む冒険の旅がそろそろ終わろうとしている。

01－07. ベルモンド アンデアン・エクスプローラーの客室は、クローゼット、シャワーにトイレ、そしてバスアメニティーを完備。食事中での飲食代もすべてツアー料金に含まれる。料理は体に優しい味わいで、高所により食欲が低下していても、ペろりと平らげてしまう。ラウンジ車両のバーカウンターでは、ペルーの蒸留酒ピスコを使ったカクテルなどの楽しみも。



01. クスコのアルマス広場に立つ、ラ・コンパニーア・デ・ヘスス教会。02. クスコの街。03. 民族衣装を纏うインディヘナの女性たち。04.「ミル・セントロ」のコースより、ジャガイモの一品。05. 食後はアマゾン産コーヒーをハンドドリップで。06. 標高3500mにあるインカの"農業試験場"、モライ遺跡。07. ミルのモダンな内装。窓からはアンデスの山容が望める。

インカ帝国の残り香と美味なる谷

Cuzco, Moray

クスコは、標高約3400mに築かれたインカ帝国の都。ケチュア語で「へソ」を意味するこの街はインカ道で各地と結ばれ、帝国の中心として隆盛を極めた。しかし16世紀に入り、海を渡ってきたスペインの征服者により帝国は崩壊する。彼らは神殿や宮殿などを徹底的に破壊し、金銀財宝を略奪すると、残った礎石の上に教会などを建て、今あるクスコへと再建した。クスコはインカ帝国の精巧な石組みと、スペインのコロニアル建築という二つの大国の文化が融合する独特な街として、ユネスコの世界遺産に登録されている。

征服者たちがインカから持ち帰ったものは黄金だけではなかった。それがジャガイモやトウモロコシといった、誰もが知る南米原産の食材だ。クスコからマチュピチュへ続く「聖なる谷」の絵画には、アンデネスと呼ばれる段々畑が作られ、高低差や温度差を利用して、ジャガイモ、トウモロコシ、トマトなどの作物が同時に栽培されていた。農作物の安定供給は人々の暮らしを豊かにし、これにより得られた労働力が、インカ帝国を数世代で築いた要因の一つだと考えられている。

聖なる谷には、円形状の巨大な窪み「モライ遺跡」が残る。段々畑の高低差は1000m、最上部と最深部の気温差は15℃になり、異なった温度帯で複数の農作物を実験的に育て、品種改良の研究をしていた可能性が高いという。

そんな"農業試験場"を望む高台にあるのが、ペルーを代表するスターシェフ、ヴィルヒリオ・マルティネス氏が手掛ける食物研究所兼レストランだ。提供するのは「HIGH ALTITUDE ECOSYSTEMS」という全8品のコース料理のみ。アンデスの高地でさまざまな食材を育んだインカの民に敬意を表し、標高3500m以上の周辺の農家で採れた食材だけを使うという。また、一帯の1000種におよぶ食用植物を採取し研究していることから、スペイン語で「1000」を意味する「ミル」を店名に掲げる。ここが存在することで、農家の収入向上にもつながっているのだ。

スタッフのなかには海外から来ている農業学者もおり、畑仕事を手伝いながら収穫した食材を研究し、料理人と調理法を考える。その味は、アンデスの冒険を締めくくるにふさわしい、最高のご馳走だ。

Information about Peru

ミル・セントロ MIL Centro

リマのモダンペルー料理レストラン「セントラル」を営む料理人ヴィルヒリオ・マルティネス氏による、最新プロジェクト。

51-926-946-086 Via a Moray, Meres http://milcentro.pe

ラ・ベニータ La Benita

シェフが母親から受け継ぐアレキパ郷土料理と、インカの食材を使った実験的な料理の両方が楽しめるレストラン。

51-972-345-929 Plaza Principal 114 Characato, Arequipa

ペルー日本人移住120周年 2019年日本ペルー交流年

120 AÑOS INMIGRACIÓN JAPONESA

1889年4月3日、日本から初めての南米移住者たちがペルーに到着しました。2019年は、その120周年にあたります。これを記念し、日本各地でペルーに関するさまざまなイベントを開催予定です。

Information about JAL

ペルーへはLATAM航空とのコードシェア便が運航中!

JALとワンワールドアライアンスメンバーのLATAM航空は、アメリカからペルーの玄関口リマへのコードシェア便を運航しています。ペルーへのご旅行には、LATAM航空とのコードシェア便をぜひご利用ください。

ペルーへのアクセス

東京（成田）、大阪（関西）からアメリカ・ロサンゼルス国際空港へJAL直行便が毎日運航。ロサンゼルスからLATAM航空とのコードシェア便でリマのホルヘ・チャベス国際空港へ。リマで乗り継ぎ、アレキパ、クスコへ。ほか、羽田、成田などからJAL直行便で、ジョン・F・ケネディ国際空港または、ダラス・フォートワース国際空港を経由する行き方も。

走るラグジュアリーホテル

ベルモンド アンデアン・エクスプローラー Belmond Andean Explorer

オールインクルーシブの豪華クルーズトレイン。4つのルートがあり、今回ご紹介したのは「ANDEAN PLAINS & ISLANDS OF DISCOVERY」。バロック建築が美しいアレキパを日没と共に出発し、チチカカ湖、高原地帯を経て、古代インカ帝国の首都クスコへ向かう2泊3日のコースだ。ほか、クスコ―プーノ間の1泊2日コース、クスコ―チチカカ湖―アレキパを2泊3日で巡るコースもある。

コンドルの谷の山岳リゾート

ベルモンド ラス・カシータス Belmond Las Casitas

緑豊かなコルカ渓谷にひっそりと佇む20棟のバンガローは、すべてプライベートプール付き。コンドルウォッチング、アルパカフィーディング、ペルー伝統料理教室など、アクティビティーも豊富。

Parque Curiña s/n Yanque, Arequipa

クスコ旧市街に建つ

ベルモンド パラシオ・ナザレナス Belmond Palacio Nazarenas

かつての宮殿と僧院を数年かけて修復した、クスコ有数の高級ホテル。スイート56室からなり、24時間バトラー・サービスを完備。アルマス広場のすぐ裏手に位置し、街歩きの拠点に最適だ。

Calle Plazoleta Nazarenas 223, Cusco

ベルモンドについての問い合わせ・予約
0066-3381-3732 www.belmond.com/ja/

取材協力／ペルー政府観光庁 www.perutravel.jp